

別紙 動画内容

○「ふくい発掘現地速報 2022 沖布目北遺跡」

福井県では、令和4年4月から7月にかけて、坂井市の沖布目北遺跡を昨年度に引き続き発掘調査しました。今から約4千年前の縄文時代後期の集落跡です。今回の主な発見は、埋甕（うめがめ）と呼ばれる土器を地中に埋設した遺構であり、埋甕の底に穴をあけたものや、2基並んで埋設された埋甕がありました。遺物では、耳栓（じせん）と呼ばれる土製耳飾りや、土器を作る際に敷いた編み物の網代（あじろ）痕がきれいに付いた縄文土器などが必見です。

○「ふくい発掘現地速報 2022 舟寄遺跡」

福井県では、令和4年4月から9月にかけて、坂井市の舟寄遺跡を発掘調査しました。今から約4千5百年前の縄文時代中期後半の集落跡です。今回、竪穴住居21棟を確認しました。住居内には石囲い炉も一部で確認できました。縄文土器ではかなり珍しい全面を赤色で塗った台付壺が貴重です。舟寄遺跡は、平成17年度の発掘成果と合わせると直径約140m以上の環状集落になると想定されます。また、これまでに見つかった竪穴住居数が40基以上になることから、福井県内では最大級の縄文集落といえます。

○「ふくい発掘現地速報 2022 長崎遺跡」

福井県では、令和4年4月から9月にかけて、坂井市の長崎遺跡を発掘調査しました。遺跡は、長崎称念寺を中心として発展した中世の都市遺跡です。今回の調査では、町なかを通る溝が川とつながる箇所、船着き場と想定される場所が見つかり、川船が町の中心部に直接出入りしていたことがうかがわれます。遺物では、笏谷石（しゃくだにいし）のバンドコ未製品、繊細な漆絵文様の漆器、仏具の青銅製鏡（わん）などが注目です。

○「ふくい発掘現地速報 2022 大森鐘島遺跡」

福井県では、令和4年5月から6月にかけて、福井市の大森鐘島遺跡を発掘調査しました。遺跡は、志津川のほとりにあり、背後には明神山廃寺が存在します。調査によって、奈良時代から平安時代前期にかけての大型の掘立柱建物が7棟見つかりました。その柱穴は一辺1m以上のものもあり、柱根や礎板が残るものもあります。出土遺物には、硯や墨書土器といった知識人の居住を裏付ける遺物があり、また、かなり稀少な緑釉陶器なども見られました。明神山廃寺との関連が考えられます。

○「ふくい発掘現地速報 2022 袋田遺跡」

福井県では、令和4年4月から8月にかけて、勝山市の袋田遺跡を発掘調査しました。ここ袋田は交通の要衝として古くから町が発達します。江戸時代にいたり勝山城の城下町へ継承され、調査地付近は職人町となっていたもようです。今回の調査では、鍛冶関連遺構（かじかんれんいこう）が室町時代の生活面と江戸時代の生活面の両方で見つかったので、袋田遺跡で見つかった鍛冶遺構について詳しく見ていきたいと思えます。